
祖国奪還のために

変態な愛国者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

祖国奪還のために

【コード】

N07500

【作者名】

変態な愛国者

【あらすじ】

侵略者から祖国を、愛いする人を守るために知ってほしい。

私の祖国日本は売国奴に蝕まれ赤化の波に飲み込まれようとしている。

我々大和民族が戦わなければ日本は滅びてしまう。

なぜこのような状況になったのか知らない者には不思議で仕方ないだろう。

しかし、真実を知り未来を変えなければ我々は民族浄化よって滅びてしまう。

これから私が語ることは真実である。

まず、赤どもの侵略方法について教えよう。

赤どもの手口は巧妙で巧みな偽装が施されており一見侵略者が侵入してきているとは分からないように慎重に侵入してくる。

確実に狙った国を滅ぼすために赤どもはユダヤ的なやり方を用いてくる。

まず教育者層にもぐりこむ。

ここでまず若者の思想を破壊するのだ。

嘘の歴史を教え、間違えた男女平等を教え、祖国の権威を失墜させ、民族の誇りを奪い国家と民族を分裂させる基礎を作るのだ。

嘘の歴史とは教科書に書かれていることである。

教科書に書かれていることは全て嘘であり信じてはいけない。

教科書には英霊たちを貶め、英霊が戦った聖戦を否定し、我々の誇りを奪う事しか書かれていないからである。

また学校は男女平等を良いものだと教えるが男女平等とは男性を差別する事なのである。

そして男女平等の名のもとに恋愛至上主義といった毒された価値観を植えつけられ男女ともに、特に女性の貞操観念は破壊されたのだ。現在少子化、少子化といわれているがそこには経済的な問題もあるがそれは大した問題ではない。

少子化の真の原因は女性の貞操観念の喪失である。

誰であろうと人の抱いた女など愛せるわけがない、汚らわしいだけである。

男女平等は少子化を引き起こすだけではない、男女平等によって国家は破滅するのだ。

また女性の社会進出も国家を破滅させる要因の一つである。

これは男性の仕事を奪い、経済的に自立できない男性を増やすのである。

さらに女性優遇も国家を破滅させる。

女性が優遇されれば、されるほど国家は衰退し、破滅するのである。なぜなら基本的に女性は幼稚で、我がままで、人をすぐに裏切る愚劣な存在だからである。

男女平等の名のもとに社会を破壊した女性は最終的に愛を破壊する。

そうして国家と民族を分裂させるのである

そしてもう一つ国家と民族を分裂させる方法がある。

それはマス・メディアでの権力を握ることだ。

赤どもはメディアでの権力を握ると真実を抹殺し捏造報道を行うようになる。

メディアの報道に真実はなく彼らは我々大和民族を貶める嘘しか言わなくなる。

なぜなら真実は赤どもにとって不利益でしかないからだ。

嘘をまるで国民の総意のように報道し世論を破壊する。

そして平和だ、他民族との共生だ、などと美辞麗句で国民をだまし、洗脳された国民は他民族の侵入を許してしまうのである。

そして最後に今までの築き上げた地位や資金、人脈を使い指導者層に侵入する。

そうして侵略者が我が国の指導者になり、他国の軍隊を呼び込み、我が国を破壊するのである。

以上が赤どものやり方である。

もしこの事を知ったなら、愛する人を守るために広めてほしい、こ

の文章をネット中に広めてほしい。
来るべき祖国奪還の日に備え真実を知る者を一人でも増やすために。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0750o/>

祖国奪還のために

2010年10月11日15時06分発行